



## 世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「おはようございます、部長！ついに見つけましたよ！」

「おはよう榎原くん。何を見つけたんだ？」

「News Picks っていう経済ニュースキュレーションで発言していましたよね？」

「あー、News Picks ね！たまにコメントしているよ。やっぱインプットしてアウトプットをすぐにできる場所としていいと思うしね。」

「著名人のコメントが多くて、勉強になります！しかし、広木部長は有名人でしたね。今まで、ただのおやじかと思っていましたよ。笑」

「ばかもん！これでもよく日経新聞とかにコメントが掲載されている優秀なストラテジストだぞ！！」

「自分で優秀って言っちゃうあたりが、広木部長らしいですねっ。笑」

「はあ、最近榎原君には馬鹿にされてる気がするよ…。」

「そんなことないですよ！ちゃんと少しは尊敬していますって！」

「少しかぁ…ところで今週もやってきたかい？」

「もちろんですよ！ちゃんとアウトプットしないとね！」



## 今週の注目レポート・重要ニュース

米国に続いて今週は日本でも決算発表がスタート 株式市場の調整一巡に期待

■経済指標や重要イベントなど

## 【1.米国】

先週の米国市場は下落しました。世界景気の減速懸念やエボラ出血熱への警戒感などから大きく下げた始まったダウ平均は、米経済指標の悪化を受けて週半ばにさらに大きく値を下げました。経済指標の改善や好決算を受けて週末のダウ平均は大幅反発となったものの、週間ベースでは1%の下落。

## 1-1.小売売上高

15日発表の9月の米小売売上高は前月比0.3%減と8カ月ぶりのマイナスとなり市場予想を下回



りました。世界景気の減速懸念があるなか、小売売上高の悪化を受けて頼みの綱であるとみられていた米景気に先行き不透明感が出て株式市場では売りが加速。

### 1-2. 製造業景況感指数

15日に発表された10月のニューヨーク連銀製造業景況感指数は6.17と前月の27.5から大幅に悪化し市場予想も大きく下回った。一方で16日発表の10月の米フィラデルフィア連銀製造業景況感指数も20.7と前月から低下したが、市場予想は上回った。

### 1-3. 米鉱工業生産指数

9月の米鉱工業生産指数は前月比1.0%のプラスとなり市場予想を上回った。

### 1-4. 住宅関連指標

16日の10月のNAHB住宅市場指数は54と前月から低下し市場予想を下回った。17日の9月の米住宅着工件数は年率換算で約101万7000戸となり、前月の改定値から6.3%増え2カ月ぶりの増加となった。今週は21日に9月の中古住宅販売が、そして24日に新築住宅販売が発表される。

### 1-5. ミシガン大学消費者信頼感指数

17日に発表された10月の米ミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）は86.4と前月から1.8ポイント上昇し7年3カ月ぶりの高水準となり市場予想を上回った。

### 1-6. 米国企業の決算発表

米主要企業の決算はますますの滑り出しとなっています。先週末までに決算を発表した主要企業の6割強が予想を上回る内容となった。米主要企業の決算発表は今週が前半のピークで、今週も多くの決算発表が予定されています。20日にはアップル（AAPL）やIBM（IBM）など、21日にはコカ・コーラ（KO）やマクドナルド（MCD）、22日にはボーイング（BA）やAT&T（T）、23日にはマイクロソフト（MSFT）やキャタピラー（CAT）、アマゾン・ドットコム（AMZN）、そして24日にはプロクター・アンド・ギャンブル（PG）やフォード・モーター（F）などが決算を発表する予定。

詳細は「米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。



## 【2.欧州】

先週の欧州の主要株価指数は高安まちまち。上昇して始まった欧州の主要株価指数ですが、週半ばには世界経済の減速懸念から大きく下げた。週末の欧州の主要株価指数が ECB による追加の金融緩和期待もあって大きく上昇したことから、週間ベースでみるとドイツは上昇となった。しかし、フランスは週半ばの下げを取り戻すことができず下落となった。

### 2-1. ZEW 景況感調査

ヨーロッパ経済研究センター（ZEW）が 14 日に発表した 10 月のドイツの景況感指数はおよそ 2 年ぶりのマイナスとなった。同センターはドイツが 7-9 月期に景気後退に陥る可能性があるとの見方を示している。

### 2-2. ユーロ圏 PMI 速報値

23 日にはユーロ製造業購買担当者景気指数（PMI）が発表される。9 月の 50.3 から 10 月は 49.9 と好不調の分かれ目である 50 を下回る予想となっている。欧州経済の減速懸念が高まっているだけに注目される。

## 【3.日本】

先週の日本市場は大幅下落でした。日経平均は米国市場の下落やドル円が円高に振れたことなどから一週間で 800 円近く下げ、5%を超える調整となった。日経平均は 8 月 8 日の安値も下回りほぼ安値引けで週の取引を終えています。

### 3-1. 決算発表スタート

米国市場に続いて日本でも 3 月期決算企業の第 2 四半期決算発表が始まります。本日は安川電機（6506）、22 日には日本電産（6594）が、週末にはファナック（6954）が決算発表を予定しています。

## 【4.中国】

先週の上海総合指数は 1%を越す下落となった。週半ばこそ上海と香港の相互取引の開始延期への懸念が後退し上昇したものの、先週の上海市場は景気減速懸念や欧米株安などから 5 営業日中 4 営業日で下落。

### 4-1. 7-9 月期の GDP

21 日に中国の 7-9 月期の GDP が発表される。4-6 月期は小規模な景気刺激策により前年同期比



7.5%増と 1-3 月期から若干持ち直した。7-9 月期は内需の鈍化を背景に 7.2%程度へと成長鈍化が予想されている。世界経済の減速懸念が根強くあるなかでの発表だけに注目される。

#### 4-2. HSBC 中国製造業購買担当者景気指数 (PMI)

9 月の中国製造業 PMI 速報値は受注増加を背景に市場の予想に反して上昇したが、確報値で前月比横ばいに修正。23 日に発表される 10 月の HSBC 中国製造業 PMI 速報値も変わらないの予想。

詳細は「中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント」をご覧ください。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本] [チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本] [シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本] [フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本] [J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本] [主要日本企業決算カレンダー](#)
- [米国] [主要米国企業決算カレンダー](#)
- [米国] [米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [中国] [中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [その他] [J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

### グローバル・マクロ・ビュー (世界経済の基本観)

#### 1. 日本 (前回からの変更なし)

内閣改造後の経済対策および、消費税再引き上げ決定に向けた秋～冬の景気に要注目。

#### 2. 米国 (前回からの変更なし)

景気回復鮮明に。QE は秋に終了、来年の利上げ時期が焦点に。

#### 3. 欧州 (前回からの変更なし)

8 月のドイツの鉱工業生産は 2009 年 1 月以来の大幅な低下で欧州経済の成長鈍化懸念強まる。ECB の今後の追加金融緩和に注目。

#### 4. 新興国 (前回からの変更なし)



中国において、8月の鉱工業生産が5年8カ月ぶりの低水準となったため景気後退懸念も。今後の動向に要注目。

「うむ、今週も良くできていたよ。榎原君もちゃんとしたストラテジストになれそうで何よりだ。ところで何で News Picks 始めたんだ？」

「そりゃ、証券会社で働いているからにはインプットの量を増やさないとってね！あと…」

「あと…なんだね？」

「News Picks って Facebook と連携しているのよ、有名人（お金持ち）と知り合いたくて笑」

「ばっかもーん！そんな不純な動機で使うな！！」

「でも、広木部長も有名人なんだから出会い系として使いたいと本当は思ってるんでしょー？」

「うっ…」

#### 利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
一般社団法人 日本投資顧問業協会